

有珠山：決して嘘をつかない火山

日本で最も活発な火山の 1 つとされる有珠山は、火山だらけの国立公園にあってもひと際目立つ存在です。わりと最近（およそ 20,000 年前）に形成された山で、活発な時期もあったものの、その後はおよそ 7,000 年にわたって火山活動を見せることはありませんでした。しかし 1663 年に眠りから目を覚まし、それ以来 3 世紀半にわたって地元住民を警戒させてきました。有珠山は 1663 年以来 8 度噴火し、そのうち 4 度は過去 100 年の間に起こっています（1910 年、1944 年、1977 年、2000 年）。

外野からするとこれは恐ろしいことだと思うかもしれませんが、地元の住民は安心感すら覚えています。有珠山はほぼ 30 年おきのスケジュールで、より定期的な活動を見せるようになってきたのですから。それに加え、有珠山はそろそろ昼寝から目覚める合図を住民に送ります。噴火の 2、3 日前から数週間前にかけて地震や地割れを繰り返すのです。有珠山の噴火は定期的で予知可能、そして礼儀正しいことに周囲の田園地帯を破壊する前に警告を発してくれます。研究者が有珠山に関心を寄せる最大の理由です。有珠山は「決して嘘をつかない火山」というお馴染みのフレーズが生まれた所以です。

有珠山の噴火の頻度とほぼ確実な再発の可能性により、災害に対する備えと地元の危機管理という点において、この地域は世界最先端を行く地域の 1 つとなりました。周辺の町は想定される被害の方向や程度を示すハザードマップを作成しては改善してきたほか、緊急避難計画を策定し、その効果はこれまでに何度も噴火そのものによって試されてきました。緊急時には地元の鉄道会社が臨時列車を走らせて住民の避難をアシストします。2000 年に起きた前回の噴火では 16,000 人が素早く安全な場所へと避難し、1 人の死者を出すこともありませんでした。